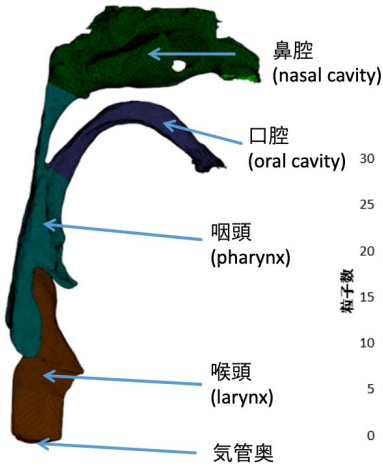
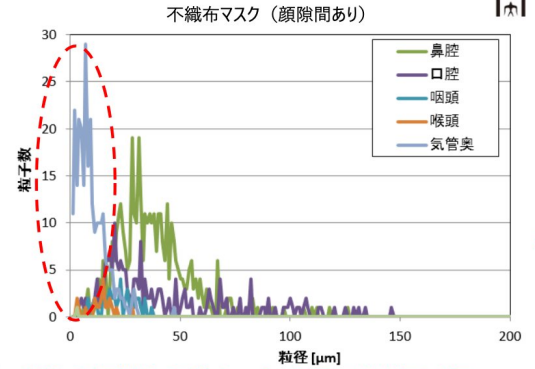
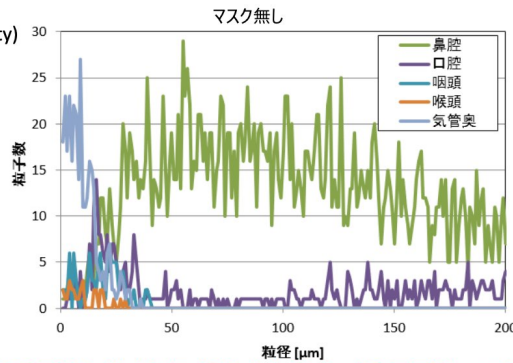


身体に取り込まれる飛沫の数の定量評価

- 呼吸6秒後に身体に取り込まれた飛沫粒子の数



- マスクなし**：大きな飛沫は鼻腔や口腔にほぼ付着するが、20ミクロンより小さな飛沫・エアロゾルは気管奥にまで到達する。
- マスクあり**：マスクを着用することで上気道に入る飛沫数を**三分の一**にすることができる。特に大きな飛沫については侵入をブロックする効果は高い。ただし20ミクロン以下の小さな飛沫に対する効果は限定的であり、マスクをしていない場合とほぼ同数の飛沫が、気管奥にまで達する



- マスクをすることで、吸気時に体内に取り込まれるウイルス飛沫・エアロゾルの個数を三分の一にすることができる。**
- ただし、エアロゾルに対する効果は限定的であり、マスクと顔の隙間からの侵入を阻止することは難しい。**
- 被感染抑止としては、換気等によるエアロゾル低減策との併用が重要である。**

提供：理研・豊橋技科大・神戸大，協力：京工繊大・阪大・大王製紙



- 20ミクロン以下の小さな飛沫はマスクしていても気管奥まで達すると記載

図 3-5-1: 富岳のシミュレーション実験でもマイクロ飛沫では効果無し